

福岡大学病院精神科デイケアにおける院内デイケアの試み 院内デイケアからのデイケア導入と外来からのデイケア導入を比較して

富永 信平 平川 清人 本田 洋子
西村 良二

福岡大学医学部精神医学教室

要旨：目的：福岡大学病院精神科病棟で精神科リハビリテーションの一環として、退院を間近に予定しており、退院後の早期のデイケア通所を希望している入院患者に対し、入院期間中にデイケアの開始を行っている。この取り組みを当院では「院内デイケア」と呼んでいる。今回我々は、この院内デイケアからデイケアへ導入した群と外来からデイケアへ導入した群の2群に分けて比較を行い、院内デイケアについての取り組みについて考察する。方法：対象は2007年4月から2008年8月までに当院デイケアに導入された33名を院内デイケア群10名と外来デイケア群23名の2群に分けた。この2群について、年齢、診断、デイケア導入における提案者、発症年齢、BPRS（簡易精神症状評価尺度）、GAF（機能の全体的評価尺度）、抗精神病薬の投薬量、通所開始後3ヶ月の通所状況について比較分析した。結果：年齢、診断、発症年齢、BPRS、GAF、抗精神病薬の投薬量、通所開始後3ヶ月の通所状況において両群間の有意差は認められなかった。結論：デイケア導入における提案者では、院内デイケア群において有意に主治医が提案者となっていることが判明した。またデイケアへの定着率に関しても、院内デイケア群においても維持されていた。

キーワード：院内デイケア，リハビリテーション，デイケア，定着率